

[自主研究]

# 生態園における昆虫類等多様性モニタリング調査

嶋田知英 小川和雄 三輪誠 長田泰宣

## 1 目的

埼玉県環境科学国際センター内にピオトープとして整備された生態園は、今後、様々な昆虫や鳥類が侵入定着し、新たな生態系がたち作られることが期待されている。そこで、生態園管理のための基礎的資料を得るとともに、新たなピオトープ創造に必要な情報を収集するため、野生生物の発生経過を調査した。

## 2 方法

### 2.1 調査地点

調査は埼玉県環境科学国際センター生態園、及び生態園のモデルとなった騎西町内の玉敷神社及び中の目の湿地で行った。

### 2.2 調査方法

鳥類及びチョウ、トンボの個体数を、ライントラセクト法により調査した。調査間隔は生態園では概ね1週間、玉敷神社、中の目の湿地は2週間とした。定期調査以外にも、適宜巡回し、出現した鳥類、チョウ、トンボの種類を記録した。

## 3 結果

2001年1月より2002年2月までに生態園で確認した鳥類、チョウ、トンボは、それぞれ39、37、14種(表1、2)であり、2000年の調査に対し、それぞれ10、11、2種が新たに確認された。

最も優占していた鳥類は、スズメで、総個体数の25.9%を占め、続いてムクドリ13.3%、カルガモ10.3%、ヒヨドリ10.3%であった。また、チョウでは、モンシロチョウが最も優占し、30.0%を占め、ツバメシジミ11.8%、コムシジミ8.9%と続いた。トンボではアカアカナ、コシアキトンボ、ノシメトンボが優占し、3種で71.7%を占めた。

モデルとなった玉敷神社及び中の目の湿地で確認した鳥類、チョウ、トンボの種数は、それぞれ37、24、7種となり、生態園より若干少なかったが、アカゲラ、カケス、オオタカ、クロヒカゲなど比較的暗い林を好む種がモデルとなった地区のみで確認された。

## 4 今後の研究方向等

継続的に調査を行い、経時的な動物相の変遷や、生態園とモデル地区との比較などを行う。

表1 埼玉県環境科学国際センター生態園における鳥類の消長

科名	種名	2001年												2002年		
		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	
カモ科	カルガモ															
	ホシハジロ															
キツキ科	コゲラ															
	アオサギ															
サギ科	ゴイサギ															
	コサギ															
ダイサギ	ダイサギ															
	チュウサギ															
アト科	カワラヒワ															
	シメ															
カラス科	オオカ															
	ハシブトガラス															
ハシボロガラス	ハシボロガラス															
	シジュウカラ															
セキレイ科	セグロセキレイ															
	ハクセキレイ															
ヒタキ科	オオヨシキリ															
	ジヨウビタキ															
シロハラ	シロハラ															
	セッカ															
ツグミ	ツグミ															
	ツバメ															
ツバメ科	ツバメ															
	スズメ															
ヒヨドリ科	ヒヨドリ															
	ヒヨドリ															
ホオジロ科	アオジ															
	ホオジロ															
ムクドリ科	ムクドリ															
	ムクドリ															
メジロ科	メジロ															
	メジロ															
モズ	モズ															
	モズ															
ハヤブサ科	チヨウゲンボウ															
	タシギ															
チドリ科	チドリ															
	コチドリ															
ハト科	キジバト															
	シロコバト															
カウセミ科	カウセミ															
	カウセミ															
ウ科	カウ															
	カウ															

表2 埼玉県環境科学国際センター生態園における昆虫の消長

科名	種名	2001年												2002年		
		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	
アゲハチョウ科	アオスジアゲハ															
	アゲハ															
カラスアゲハ	カラスアゲハ															
	キアゲハ															
クロアゲハ	クロアゲハ															
	ジャコウアゲハ															
シジミチョウ科	ウラギンシジミ															
	ウラナシシジミ															
ツバメシジミ	ツバメシジミ															
	ベニシジミ															
ムラサキシジミ	ムラサキシジミ															
	ムラサキツバメ															
ヤマトシジミ	ヤマトシジミ															
	ルリシジミ															
ジャノメチョウ科	サトキマダラヒカゲ															
	ヒカゲチョウ															
ヒメジャノメ	ヒメジャノメ															
	キチョウ															
シロチョウ科	スズクシロチョウ															
	ツマキチョウ															
モンシロチョウ	モンシロチョウ															
	モンシロチョウ															
セセリチョウ科	イチモンジセセリ															
	キマダラセセリ															
チャバネセセリ	チャバネセセリ															
	アカタテハ															
アサマイチモンジ	アサマイチモンジ															
	イチモンジチョウ															
キタテハ	キタテハ															
	ゴマダシ															
コムシジミ	コムシジミ															
	コムシジミ															
ツマキチョウ	ツマキチョウ															
	ヒメアカタテハ															
ミドリヒョウモン	ミドリヒョウモン															
	ルリチョウ															
イトトンボ科	アジイトトンボ															
	クロイトトンボ															
エソトンボ科	オオヤマトンボ															
	ウチウヤマトンボ															
サナエトンボ科	アキアカネ															
	ウスバキトンボ															
トンボ科	コシアキトンボ															
	オオカトンボ															
ヤンマ科	シメジロヤンマ															
	チョウトンボ															
ナツアカネ	ナツアカネ															
	ノシメトンボ															
マイコアカネ	マイコアカネ															
	ギンヤンマ															

は調査時にそれぞれの種が確認されたことを示す。  
は今回の調査で新たに確認した種を示す。